第１３期 第１２回 鳥取市校区審議会 議事録

１　日　時　　平成３０年1月２６日（金）１４時００分　～　１７時２５分

２　会　場　　鳥取市役所第二庁舎　５階　第１会議室

３　出席者　　【委員】
本名俊正委員（会長）、野口淑文委員（副会長）、渡辺勘治郎委員、
長谷川誠一委員、松ノ谷博委員、大村匡由委員、吉澤春樹委員、川口有美子委員、
山田康子委員、牛尾柳一郎委員

【教育委員会（事務局：校区審議室）】
木村義彦次長、石上直彦主査兼指導主事、大坪宗臣主任、井上宏主事

４　会議次第　　１ 開　会
２ 会長あいさつ
３ 議事録署名委員の選任
４ 報告
（１）第１０回校区審議会審議概要について
（２）校区審議に関連する活動報告について
（３）鹿野地域小中一貫校の設置について
５ 議　事
（１）気高中校区の学校のあり方について
（２）江山中校区の学校のあり方について
６ その他
７ 閉　会

５　議事の概要

事務局

ただいまより、第１２回鳥取市校区審議会を開会させていただきます。

本日は、田中委員、森本委員より欠席のご連絡をいただいております。

１０月開催の第１０回校区審議会では、「中間まとめ」をまとめていただきました。教育委員会事務局ではこれを受け、自治連合会、PTA 連合会等での説明や鳥取市全町内会への班回覧を行うなどして周知を図ってきたところです。

また、江山校区の学校のあり方についてもご審議をいただきました。この中で、「小中一貫校としてどのような子どもを育て、どのような学校づくりを目指すのか」といった内容についてのご議論を「江山校区の学校のあり方を考える会」へお願いするということになりました。これを受け、「考える会」に依頼をし、この度回答をいただきましたので、再度ご審議をいただきたいと思います。

１１月開催の第１１回校区審議会では、「逢坂の教育を考える会」からの要望書を受け、現地視察を行っていただきました。その後、１１月末に瑞穂地区でも「瑞穂小学校の在り方を考える会」が設立され、学校のあり方の検討が始まりました。このようなことを踏まえ、気高中学校区の学校のあり方について慎重なご審議をいただきたいと思います。それでは本名会長よりご挨拶をいただきまして、以降の会の進行もよろしくお願いいたします。

会長

皆さん、こんにちは。

雪の中、お出でいただきありがとうございます。本審議会の際は天候が安定しておらず、寒い中、千代橋を渡っていただきましたが、本日、雪のため２名の委員が欠席でございます。様々な課題が山積しており、本年度中に決めなければならないことと少々時間のかかることがございますが、熱心に討議をお願いします。

先ほどご挨拶いただいたように、「中間まとめ」については、各町内の回覧版でも回ってきました。多くの市民の方に見ていただいて、鳥取市の学校の現状がなかなか厳しいということを少しずつご理解いただけていると思います。

先日、あるテレビ局で、「３０年後、学校数はどのように変化するのか」という某大学教授の番組が放映されていました。島根県では適正規模の学校が１１％程度しか残らないとのことでしたし、もちろん東京でも減っているようです。現在の予想では、日本の社会が大きく変わっていきます。日本の人口が１億２千７百万人で下り坂に入っていますが、３０年後である２０５０年頃には９千万人を割るだろうという予想です。もし９千万人としますと、極端に言うと現在の人口から３分の１あるいは４分の１の人口が減るということですので、働き盛りの労働人口は減っていきますし、もちろん子どもたちの数も減っていきます。その中で、「どのような子どもを育てるのか」は今までとは変わってくると思います。また、「どのような学校をつくり、どのように子どもを伸ばすのか」も同様です。３０年後を睨むことはなかなか難しいですが、本委員会では、少なくとも５年後、１０年後を睨んでいくこととなります。

現在抱えている問題で過密又は過疎の見込みがある地域でどのように教育効果をあげていくか、学校をどうするかということが大きな問題です。場合によっては学校がなくなると予想される地域でも「村づくり、まちづくり、地域づくり」については特に、今までとは違った考え方が必要です。今までは、何か新しいことをする時には予算をつけて増やしていく次第でしたが、今後は小さくなりながら特徴を出して住みやすくしていくこととなり、非常に難しいです。村づくりだけでなく、学校や会社等、あらゆる側面でそのことが言えます。その中で、どのような子どもを育てていくのかは難しい問題ですが、どこかで決めないといけません。切ない部分もありますし、期待する部分もあります。それを含めて、活発にご討議いただきながら、鳥取市の教育の将来、特に学校のあり方や学校区についてご検討いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

続いて、本日の会の議事録署名委員の選任に移ります。名簿順で山田委員と牛尾委員にお願いしたいと思います。次回、印鑑をお持ちください。よろしくお願いいたします。

それでは報告事項が３点ございますので、まとめてご報告していただき、質疑応答の後、議事に入ります。議事は２件ありますが、ご意見を伺いながらすすめていきたいと思います。それでは報告をお願いします。

事務局

［資料説明］

会長

まとめて３件報告いただきました。このうち、気高と江山につきましては議事で詳しく議論します。

その他でご質問・ご意見等はございますか。特に、「中間まとめ」と鹿野についてですがいかがでしょうか。

この後、気高と江山については審議を行いますが、「中間まとめ」の中で、様々な工夫が必要な地域があります。

現地見学をしていただいた千代川以西ですが、そう遠くないうちに方向性を出したいと思います。というのも、児童数の推移を見ると、数年先に城北小学校の校舎がいっぱいになることが想定され、あまり待てない状況にあります。千代川以西につきましては、自治会・町内会ともに複雑ですので、地元の意見を待つのではなく、ある程度委員会として方向性を出さないと難しいと思います。

また、中心市街地につきましても、課題がございます。委員のみなさまや事務局のご意見を伺いながら、「中間まとめ」の中の課題の一つ一つを詰めていきたいと思います。

まずは、〇〇委員、千代川以西について、地域の現在の様子などはいかがでしょうか。

委員

自治連合会では中間答申について説明いたしました。この１月に、自治連合会は新しい役員さんに替わるのですが、替わった時点で、教育委員会の方もお呼びしての意見交換会を考えています。ただ、自治連合会で各町内の方に「将来学校をどのようにすればよいか」と聞いていただいていますが、現状では、どの町内も「現状のままがよい」というご意見が大勢を占めているようです。

答申は答申として出ますが、地元のご意見をどれだけ最大限活かすのか、期間があまりありませんが、話合いの機会を何回か持ちたいと思っています。

会長

千代川以西は、町内会が無い地域もあり、公民館と町内会の地域割りが整合していないなど複雑になっていますので、ご意見を全体としてまとめていただくのはなかなか大変かと思いますが、城北小学校の児童数増加の問題もありますので、方向性を出さざるを得ないと思います。

〇〇委員、何かございますか。

委員

先ほどおっしゃられたように、役員さんや町内会長さんが１年ごとに替わられることもあります。２年以上の役員さんはよいですが、今まで検討された方が替わってしまうと、替わられた方は今までの会合にも出ていないので、議論がさらになってしまうケースが多いです。

そのため、長年引き継いだ意見は会の中で出てきますが、自治会の役員や町内会長は初めての方が多く、さらになることの繰り返しになるため、「現状のままがよい」という意見が自然と多くなります。

特に、「子どもたちが橋を渡って登下校するのは危険だ」という認識は、子どものいない家庭にはあまりないので、役員さんによっては関心がない場合があります。

ですから、地区の中で最初に意見を出すというよりも、教育委員会である程度の案を出していただいて、地域の意見をいただくというのが各会長のお考えではないかと思います。

会長

事務局は何かありますか。

事務局

〇〇委員からお話がございました新しい役員さんとの意見交換会については、ぜひ、機会をつくっていただいて、説明をさせていただきたいと思っています。

もう一点、「地域の意見がなかなかまとまりにくいので、方向性を出したらどうか」というご意見を頂きました。前回の中間答申では、「地域の方の現状、特にこれから子どもを通わせる保護者の方の意識を把握して」という旨をお伺いしていますので、これから審議していただくうえで、把握すべき情報の内容や、地域の方に説明、あるいは調査する場合の対象や方法などを、委員の皆さまからご意見をいただけましたら、事務局はそれに沿って各地域に伺いたいと思います。

会長

皆さん、ご意見はございませんでしょうか。現状で方向性をある程度出さなければと思います。数年先を考えると、ここ１年で結論を出さなければと思います。その辺りで少し意見を頂きたいです。

〇〇委員、いかがですか。

委員

千代川以西の問題については、随分前から話が出ているのですが、なかなか話が進まない原因の一つは、〇〇委員が言われたとおりです。町内会長さんが毎年変わられる中では上手く話が進まないといこともありますし、地域の意見を把握するのがなかなか難しいという現状もあります。もう一つに、子どもがいる家庭に比べて、子どもがいない家庭はあまり関心がなく、問題を認識されていない場合があるとお伺いしています。そのため、なかなか話が前に進まないのではと思います。

いちばん考えなければならないことは、千代橋を渡って子どもたちが登下校する際の安全面の問題です。児童数の問題もありますが、今までの審議会の中でいくつか話が出てきたことも含めて審議していけたらと思います。

委員

自治会の役員が替わられてなかなか話が進まない部分もあります。自治会の役員にはならないかもしれませんが、今も含めてこれからの子育て世代の保護者の方を交えた話合いの場や、一緒に考えていける場をつくることも必要なのかなと思います。子どもがいなかったら、意識が薄い部分もあると思いますので、その辺りの意見が出てくるのではないかと思います。

委員

「中間まとめ」からさらに進めるとなった時、「～町と～町は、～小学校の校区にする」という具体的な地域名、学校名を出していくというイメージでよいのでしょうか。

会長

具体的にはそうなると思います。

委員

「中間まとめ」から次のものになりますから、同じような文言を出しても意味がありません。その際、もちろん、地域の意見を伺いながらになると思いますが、私たちが具体的な地域名、学校名を考える段階であることを、共通認識する必要があると思います。

会長

具体的に原案を考えることになると思います。その後、地域の方の意見をどれだけ汲み取れるかという作業がもう一段回必要であると思います。というのも、千代川以西の課題は長い間引き続いていまして、これから１０年先、少なくとも５年先、３・４年先までに実際に動けるようにしなければいけません。具体的な案をつくり、解消する方向で進めていきたいと思います。いつまでも地域の方のご意見を待っている段階は過ぎていて、地域の方の具体的なお考えを汲み取りながら、どこかで判断すべき段階に来ていると思いますがよろしいでしょうか。

〇〇委員よろしいでしょうか。

委員

「教育を考える会」等の検討組織づくりの推進が第１３期の基本姿勢であり、いくつかの地域でつくられているのですが、自治会会長が主になっている会は、あまり積極的ではありません。

自治会長は、必ずしも教育に詳しいわけではありません。例えば、今まで成功された福部や鹿野は、校長先生方もとても熱心で、教育を考える会での議論をしっかり行わなければならないという感覚を持たれていました。そういう方がいらっしゃって、初めて「これがいいんだ」と住民に言えるのではないかと思います。

やはり、教育を考える会でも、地区の自治会や公民館長の主導ではなくて、教育のことをよくわかってらっしゃる学校の先生が、「この方法をとればこういうことになる」と地区の方に言ってくれたら、「みんながそれになればいい」という感覚が湧くのですが、「考える会をつくれと言われるからつくった」ということではなく、教育のことをよくわかってらっしゃる方が推進役になれば、議論が進むと思います。

副会長

前から申し上げていますが、会長が言われたように、１０何年も前からということでしたら、地域からの声を待つばかりではなく、何かしらの結論を審議会で出すしかないのではないでしょうか。

委員

色々な視点があると思いますが、千代川以西エリアについては、何回か協議した中で、校区が広域なので地域の意見が一つにまとまっていないと思います。例えば、まちづくり協議会が立ち上がった当時は、「ここに学校を残せば、地域の活性化につながる」という協議ではなく、エリアの特性等の、全く教育とは違った視点でまちづくりが進められていました。

私は、子どもたちの教育環境、安心・安全の観点から考えるべきだと思いますので、千代川を渡らせない方がよいのではないかと考えます。あの川をなぜ渡らせているのか、私には未だに理解できません。この審議会としては、そのことを前面に打ち出してもよいのではと思います。この審議会の答申をもって行政判断に委ねない限り、また地域住民の声を聞いていては、決まらないと思います。

委員

〇〇委員は、教育を考える会を、学校の方がメインになってと言われるのですが、福部・鹿野の学校づくりと今の城北の部分をどうするかというのは、少し立ち位置が違うと思います。というのも、城北の場合、学校が中核になって話を進めると、とても難しいと思います。

先ほど〇〇委員が言われたように、学校長としては、本日のように雪が降った時や台風の時は、まずは、八千代橋は通れるのか確認しないといけないでのすが、風速が何ｍとインターネットで見たところで、職員をその場に派遣しなければ、休みにするかどうかは判断がつきません。このように、現地に行ってみなければわからないことがたくさんあるので、安心・安全の学校生活を送らせるためには、そこは校長自身での判断が必要かなと思うのが一番目です。

二番目に、「現在の中学校区のままであってほしい」という意見の方が、私の耳に多く届きます。ただ、それがどの程度客観的なデータなのかはわからないです。答申を出す前に、会を開いて、そこで意見を聞くと言われても、なかなか来られる方は限られてきてしまいます。そうであるなら、何らかの意識調査をして、その調査の基で、地域の意見を聞きながら、行政としてはこのように考えることも必要なのかなと思います。

最後に、城北小学校は来年度、教室が一杯になります。６２０人程度の予定ですので、空き教室はもうありません。平成３１年度、更に増えるとしたら、教室はない旨を教育総務課に伝えています。安心・安全に通学させるということもそうですが、キャパがオーバーすることも情報提供し、また考慮に入れる一つの要素かなと思っています。

会長

これは特別教室棟も含めて難しいということですか。

委員

特別教室棟の教室は、普通教室に変えるにはなかなか難しい造りになっています。現在、教室棟には普通教室にすぐ変えられるような広さの色々な施設があります。例えば、ロッカーを搬入等して多少改善すれば普通教室になるのですが、それも平成３０年度で一杯です。

会長

非常に逼迫した状況ですので、それを含めながら、早く方向性を出す必要があると思います。

〇〇委員いかがですが。

委員

地元や保護者の意見でそのままの校区がいいというのは、とにかく北中校区がいいという発想です。もともと、城北小学校自体が、千代水小学校と中ノ郷小学校が合併してできています。今の千代水地

区自治会の主要メンバーは、千代水小学校から城北小学校になられた方なので、城北小学校イコール千代水小学校というイメージを持っていらっしゃいます。

ですから、今更変わりたくないということがありますし、新しい方については、千代水地区には色々な所から人が来られるのですが、若い世代は北中校区であるということで千代水地区を選ばれる方が多いので、その辺がクリアできないと納得しない方が大勢であると聞いています。ただ、〇〇委員が言われたように、細かく調査した訳ではないので、実際に通われる世代の保護者の方がどう思っているのかはもう少しあるのかなと思います。

委員

私も、昨年のこの時期にみなさんと一緒に八千代橋を歩いて、雪が舞う天候の中、子どもたちの通学の様子を体験させていただきました。

また、昨年の大雪と今回の雪の時、帰宅する小中学生を見に行ってきました。傘を閉じて、雪の中さらされながら歩いている姿をみると、頑張っているなと思うとともに、かわいそうに感じました。

やはり、橋を渡って通うのは無理があると確信しました。千代川以西に住んでいる保護者の方と話をすると、「北中に行かせたい」という意見をよく聞きますので、何年間かの猶予期間をつくって、「何年間かは北中に通えます」ということをアナウンスして、校区割りを検討し直した方がよろしいのではないでしょうか。

会長

約一年前の平成２９年３月、〇〇委員にお願いしまして、城北小学校と、千代水橋を渡って千代水小学校の跡地を視察しました。もともと千代水地区には小学校が以前はありまして、城北小学校に移ったためにあそこの地区に小学校がなくなって、なかなか難しい状況になっています。また、もとに戻すには空き地がありません。

もう一つに、小学校を新しくつくるには、予算確保等で４年程度かかるそうです。空地が少なく、子ども達が全体としては減っていく中で、新しい学校をつくるのは難しいと思います。予算面等を考慮に入れると、校区審議会で校区を変更することが一番実現可能であると考えます。

また、保護者の意識に応えるには、〇〇委員から話がありましたが、何年間か自由校区にして、どちらにでも通えるような選択制にすることも含めて、保護者の意見を少しずつ取り入れながら進めていく方がよいと思います。これについても〇〇委員の話のとおり「待ったなし」の状況になってきましたので、遅くないうちに方向性を出して、地元との協議を含めて進めなければいけない状況となっています。

約一年前の視察からなかなか審議が進んでおりませんが、これから具体的に進めていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

事務局からこの件について何かございますか。

事務局

特にありません。

会長

城北小学校については、みなさん見ていただきましたように、グラウンドが狭くなり、増改築が非常に難しい状況ですので、やはり、周辺の学校との関係を考慮しながらいい形で提案していけたらと思います。次回以降、様々な形で具体的に内容に入っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

続いて中心市街地についてですが、〇〇委員、お願いします。

委員

「中間まとめ」が出まして、私が審議会のメンバーであるとわかっている地区の方から、「どういう話合いをしているのだ」、「どこまで話は進んでいるのだ」という質問がありました。皆さん、見てくださっているのだなと理解できましたし、話をなんらかの形でスタートさせないといけないと思いますので、事務局の皆さんに対象となっている各自治会に来ていただいて、「校区審議会ではこういう話が進んでいる」ことを説明していただけるともっと議論が深まっていくと感じています。

会長

連携が取れるような仕組みをつくるということですね。

委員

はい。まずは、「議論が必要な学校区となっています。ぜひ、この機会に議論を進めていただけないでしょうか。」ということを、相手方があるので複数ではなく、一つの地域を対象とした会に来ていただき、そこからスタートしていくといいのではと感じています。

私から自治会の方に説明しても、「ここの地区の住民だろう」と言われるので、中立な立場である事務局に言っていただけると、いい話が進むと思います。

会長

では、事務局でその辺を考えていただいて、よろしくお願いします。

その他の報告事項に、鹿野の小中一貫校のことがありました。順調に進んでいると報告を受け止めたのですが、よろしいですか。

事務局

鹿野の推進委員会では、開校までに決めるべきことは決められまして、来週の２月１日（木）に推進委員会の委員長、副委員長にお出でいただき、教育長に最終報告をしていただく会を設ける予定です。

会長

わかりました。順調に進んでいて、４月の開校に特段問題はないということですね。

それでは議事に入ります。最初に「気高中校区の学校のあり方について」ご議論いただきたいと思います。１１月２０日に逢坂小学校へ視察に行き、ヒアリングをいたしました。また、気高町のもう一つの小規模小学校のある瑞穂地区でも「考える会」が設立されました。このあたりを踏まえ、事務

局より資料の説明をお願いしたいと思います。

事務局

［資料説明］

会長

前回の現地視察も行いましたが、気高町には４つの小学校があります。逢坂小学校校区からはすでに要望も出ております。また、瑞穂小学校区でも「考える会」ができています。宝木、浜村を含めて感想でも結構ですので、どういう方向がいいのかという点、あるいは課題をお話しいただけたらと思います。

委員

各校児童数はこれから先、逢坂小学校でしたらこれから５年間は大体３０数人でいくわけでして、宝木小学校の２９年度は７０人で３５年度は７３人、そして瑞穂小学校も４５人で３５年には５０人となっています。減少幅は大きくありませんが、逢坂小学校区では、大きな決断がなされました。これを機会にぜひ４校区で考えを深めてもらい、他校区とも考えを共有されていく方がいのではないかと思っております。

会長

〇〇委員、お願いします。

委員

やはりまずは相手のあることですので、各小学校で、浜村も宝木も「考える会」を立ち上げていただき、議論していただきたいのですが、小学校単位というよりも旧気高町の気高中学校区として将来子どもたちをどういう風にしていくかというビジョンを持って各「考える会」で考えを出していき、その中で「小学校をどうしようか。」という流れにもっていただけたらいいなと思います。

委員

４校区の中の２校区で教育を考える会が立ち上がっておりますが、そこの温度差、進捗状況の差をどう埋めていくか知恵を出し合っていくことが私たちの課題かなと思っております。

委員

１００人を切って５０人を切りだすととても学校の運営ができないのではないかなと思います。西中は２９４人で運営しているのですが、それでも部活の運営や色々な文書作成なども楽ではありません。さらに少ない学校の学校長の運営方針の見るにつけ、難しい運営をされているのだろうなという予想が簡単につきます。例えば、教科によっては本校でも音楽とか美術とかは全校でも週に８時間ほどしかありません。ということは、１校勤務ではとても足りないということで兼務をかけたりするわけです。普通はもっと受け持っています。授業数で言うと平均で２０時間程度受け持っていますので、８時間では半分も無いわです。そういう運営をしています。ですから中学校の立場からいうと大きい

方がいいです。

しかし、小学校については、私はそうではないと思っていまして、この前皆さんと出かけた神戸で繰り広げられている丁寧な運営というのは素晴らしいなと思いました。そうは言っても神戸は喫緊の課題だということで、地域で要望を出されたわけですが、複式になるような、学年によって０人だったり１人だったりというのはその子たちにとって可哀そうだとも思います。

喫緊の課題というのは分かるのですが、よく見極めないといけないといけません。簡単に統合というのではなく、もう少し統合の仕方も含めて考えていくべきではないかというような気持ちが私にはあります。

地図を見ると気高地区は、すごく縦に長いです。これだったら１つにまとまった方がいいと思うのですが、すごくいい校舎をどこかに作るのだったら皆さん思い出深い校舎とお別れするということが発生してしまいます。しかし、八頭の統合のように、どこかに１つの学校を建てるなど、何年か先の見通しとしてはありだと思っています。

副会長

気高と鹿野の形を見ると、地形がかなり歪になっております。その中で、谷ごとに小学校が存在する状況だと思います。人数が少ないからと言って一緒になればいいというものではないと〇〇委員もおっしゃられ、それも何となく分かる中で、気高と鹿野は今までは旧町単位でまとまるという感じでしたが、ここの場合は地形の関係も含めて気高と鹿野一体で考えてはどうかという気はしております。いずれにしても、地元の方の意見を聞きながらというところではないでしょうか。

委員

今、気高には４つ小学校がありますが、青谷も鹿野も全部１つになっています。距離は結構あるのですが、皆それでまとまって今は運営されています。今の気高については、全部の学校を集めて４００人くらいです。これから２０年、３０年経ったら減ってくるのは確実ですから、これを細かく統合してしまうと、再度統合しないといけないことが必ず起こるので、それだったら今、どこを拠点にするかは分かりませんが、一番いいのは浜村が一番大きいのでそこに集めるような格好に進めて行けばいいのではないかと思います。建てる位置は別になるかもしれませんが、やはり子供の数からいえば１つでも大きいということはありませんので、将来的にはいいのではないかなというように思っております。

委員

視察に参加できず申し訳ありませんでした。現地に行っておりませんが、資料等を見させていただく限りでは、いろんな選択肢が考えられると思うので、それを具体的に我々が提示していく、検討していくという必要があると思います。

例えば〇〇委員がおっしゃられたような１つにしてしまうのか２つにするのか、その時のペアリングとか、それも具体的に学校名を挙げながら考えていく必要があるのではないかと思います。審議会の議論と同時に、まだ「考える会」が立ち上がっていない宝木小学校区ですとか浜村小学校区においてもそういった組織が立ち上がっていただければと思いますし、気高中学校区としてこの地区の教育をどうしていくのかという組織も一方で立ち上がっていただいた方がより良いと思いますので、地域の方での動きを我々が支援するのと併せて我々としては具体的にシミュレーションを進めていくとい

うことも必要なのではないかと感じました。以上です。

委員

資料の中の気高中学校の生徒数の推移を見ましても、横並びというか極端に下がることもありません。気高中学校が４つの小学校から成っており、４つの小学校区のうち、２小学校区において考える会が立ち上がったということではありますが、気高中学校区としての小学校という見方で、まだ会が立ち上がってない浜村や宝木を含めて全体で話し合う場を持つことで問題意識を共有されてはどうかと思いました。また、それに対して校区審議会としてもどういう方向があるかという具体的な提示などができればいいのかなと思いました。

委員

児童数を見ましても逢坂、瑞穂小学校において、早期解決を考えられているという気持ちはよくわかるのですが、気高の４小学校を見ますとかなり温度差があるようにみえます。すぐに逢坂と浜村とか、宝木と瑞穂という２つずつという形ではなく、各小学校で「考える会」を立ち上げていただいて他の小学校をどうするかということで少し時間をおいて、それから校区審議会の方で議論した方がいいのではないかと思います。

会長

ありがとうございます。皆さんのご意見を伺いましたが、基本的には４小学校で「考える会」を立ち上げていただくと共に、気高中学校区全体として教育をどう考えるかということを同時に進めていただきながら方向性を出すという流れだったと思います。

具体的に学校の数となると、１＋１で２というのが１つの選択でしょうが、もう１つは４校全体という可能性もあるだろうと思いますし、当面このまま行きたいという結論が出ることもあるかもしれませんが、いずれにしましてもやはり２つの地区で「教育を考える会」というのが立ち上がって逢坂地区ではすでにどこかに移ってもいいという、あるいは移るべきだと判断されていますので、今のまま４校がそのままという状況ではないと思います。

やはり、小学校は小学校の特徴を活かせる学校の在り方、それから中学校としては中学校区全体としての教育の在り方を含めて考えていくべきではないかと思います。そういう意味では、各小学校区の地域の方々に「考える会」を立ち上げていただいて、小学校４校区と中学校区全体の会も同時に進めながら方向性を出していただくのが一番いいのではないかと思います。そこでの検討状況などを、その都度、校区審議会に上げていただきながら、校区審議会としても意見を申し上げるというようなことをしながら、そう長くないうちに結論を出していきたいと思っています。事務局ではそのあたりの調整をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。事務局から何かございませんか。

事務局

委員の皆様からのご意見をいただきましたし、気高町の地域振興会議でも了解をいただいていると思っておりますので、宝木地区と浜村地区の方にも出かけまして「教育を考える会」を立ち上げていただきたいという説明をさせていただきたいと思っております。

それから、○○委員さんが「いかに４地区の温度差、進捗状況の差を埋めるか知恵の出しどころ」

というようなご意見をいただきましたが、実は瑞穂の「教育を考える会」のご意見の中にも「温度差が違うので一気に４つ全体で考えるというようなことはして欲しくない。」というご意見も実際にいただいております。宝木地区では立ち上げようという動きをしていましたが、どうも宝木地区の中にはさらに酒津と宝木と２地区あるということで両方が一緒になってやらないといけないということで少し中断している様子でしたが、やらないといけないなということを宝木地区の代表の方も地域振興会議の中で言っておられましたので、まずは４地区それぞれで立ち上げていただくよう説明をしまして、その後それぞれの地区での様子を審議会で報告したうえで、全体ということまで進めていければと思っています。

会長

気高地区については事務局で少し下働きをしていただくということで、調整をお願いしたいと思います。

それでは２番目の議事に入るまでに少し休憩したいと思います。

（休憩）

会長

議事２「江山中校区の学校のあり方について」に入ります。前回は、「江山校区の学校のあり方を考える会」に「どのような子どもを育て、どのような学校をめざすのか」さらに議論を進めていただき、その結果を校区審議会に届けていただくこととしました。私の名前で依頼した文書が資料６ページにありますが、３つの項目について考える会にお願いをしております。これについて、様々にご検討をいただいて、１月１０日付で回答をいただいております。回答については、７ページ以降にございます。そして、最後のページに、これまでの校区審議会での議論を踏まえて、４つの案を考えながら、方向付けをしたいと考えております。論点整理として、４つの案に対して、「教育的効果」、「教育環境」、「学校と地域との関わり」といった部分をそれぞれ検討していきたいと思います。

第１０回校区審議会以降の経過を含めて、まず事務局より資料の説明をお願いします。

事務局

［資料説明］

会長

事務局より説明がありましたが、まず結論を先にということではなく、この４つの案、さらにはもっと他の案もあるかもしれませんが、「教育的効果」、「教育環境」、「学校と地域との関わり」について、メリットとデメリットなどを少しずつ埋めながら、答申案の作成のもとにしていきたいと思います。

神戸小の課題もありますので、あまり長く引き伸ばしたくはありません。校区審議会としては、神戸については、かなり限界にきており、小学校の統合はやむを得ないだろうという判断になっております。中学校部分については、我々としては現地視察をして、子どもたちの様子も聞いているのですが、やはりもう少し大きいほうがいいのではないかという意見もありました。そのあたりを含めて学

校のあり方を検討していきたいと思っています。

それでは、４つの案の論点整理をしていきたいと思います。その前に参考資料の１３ページをお開きください。今後予想される江山中の生徒数の推移です。平成２９年度から生徒数が増えたり減ったりということになります。中学校としての教育効果をどのようにして上げていくかということも含めて、人数規模による部分、そうでない部分もあるかと思いますが、ご意見をいただきたいと思います。

それでは、１４ページをお開きください。４つの案に対して、「教育的効果」、「教育環境」、「学校と地域との関わり」として整理しています。３つの論点に対していくつか項目を設けておりますが、他の項目を出していただいても結構です。最初に、「教育的効果」として挙げている中学校の運営面についてですが、４案についてメリットとデメリットを検討していきたいと思います。

委員

江山中の生徒数の推移を見ると、ずっと下がっていくわけではないようです。それを踏まえて意見を申し上げたいと思います。中学校の規模は大きいほうが良くて、運営の面で学校長としては、やはり一定以上の水準を保ちたいという思いがあるのですが、ただ近隣の中学校との統合といっても、相手があることなので、難しいだろうと思い、それではどうしたらいいのかと考えてみました。

おそらく江山中校区の方は地元に学校を残したいと思っていらっしゃると思うので、学校運用面については、小中一貫校となることで、教員に兼務がかかりますので中学校の先生が小学校に出かけて授業をするなど小学校と中学校の相乗りが可能になり、楽になるのではないかと思います。今後、国が学校のあり方の方針を出す時期が来るかもしれませんし、当面は２０年くらい先を見据えて考えると、小中一貫校であっても小学校と中学校という形で残しておいて、しばらく相乗りができる形にしてはどうかと思います。何年か先に方針の検討が進むということであれば、つなぎとしてこのような形もあるかと思います。

統合には相手のある話ですし、義務教育学校にはデメリットがあるので、子どものつながりを維持しながら、他地域と統合するのではなく、地域と共通理解をしながら人づくりをされたらいいのではないかと思います。小学校と中学校との統合によって、教員に兼務をかけることで運営は少し楽になると思います。義務教育学校では、中学校の運営そのものがなくなってしまいます。要するに義務教育学校９年の運営になってしまいます。私は、それは最終的な解決策だとは思っていません。地域が、鹿野や湖南のように他地域と離れていて、昔ながらの町づくりのようなものが残っているところはいいと思います。

会長

江山中は、部活動が人数的に十分できる環境にはありませんがいかがでしょうか。

委員

スポーツ庁がガイドラインを出され、運営が学校の先生ではなくなる方向性が検討されています。鳥取市でもガイドラインの見直しをされており、近々発表されます。その中で、例えば部活動を減らすとか、休業日を設ける、あるいは顧問を指導員に変えるとか、そのようなことを考える必要があるかなと思います。そのようなことも考えていくべきかもしれません。地域の中学生たちは、小学校のスポ少のようなクラブで活動するようになり、部活動がなくなるかもしれません。だいぶ先になるかもしれませんが、どこの地域に住んでいても、好きなスポーツができる時代が来るかもしれません。

会長

小中学校の先生の相乗りについてですが、あまりにも小さい学校ですと、音楽の先生が専任で配置されないということも出てきますか。

委員

小学校の先生で音楽の指導ができる方がいたら、そういった問題も解決されます。他の中学校から先生に来てもらわなくてもよくなります。教育委員会も学校長も教職員も楽になると思います。

会長

デメリットは何が考えられるでしょうか。

委員

部活動が今のまま中学校で行われるようでしたら、デメリットになると思います。先ほど申したように、部活動を小学校のスポ少のようにクラブで行うということになれば、中学校同士の対抗試合がなくなり、小さい学校にいても所属するクラブ同士の対抗試合になります。かなり先の話になりますが、可能性はあります。私たちが心配している部活面でのデメリットが、もしかするとなくなるかもしれません。

会長

一番考えていかないといけないのは、児童生徒にとって教育レベルが高くなるか、先生方も働きやすくなるかといったことだと思います。

江山校区の場合は、他地区との統合ということも、将来的には考えやすい面もあります。それは、旧鳥取市であった、あるいは距離的にも他の学校と近いということがあって考えやすいということです。今まで小中一貫校となった湖南、福部、鹿野は、他の学校と少し離れていてなかなか他の地区との統合は難しいということがありました。湖南学園ですが、１２月に１０周年記念式がありまして、〇〇委員の案内で、私と〇〇委員が参加して学校を見たのですが、小規模ですが授業が非常にきめ細かく、また英語の授業が多かったのですが、中学校の先生が小学生に英語を教えておられました。非常に融通を利かせているということと、地域の支援が非常に強いという印象を受けました。この１０年の間でかなり高いレベルまで来ているなと感じました。学校としての人数は多くないのですが、先駆的な例としては、成功している方ではないかと思いました。これは、教育委員会と先生方と地域の方がタッグを組んで相当熱心にしていかないとここまでの成果はないと思います。

中学校の運営面としては、小学校と中学校の先生が行き来して、それぞれの専門性を生かして教科担任制をうまく使えるという点で小中一貫校の方がいいだろうということです。ただ、それがうまくいくかどうかは、相当な工夫が必要だと思いますので、小中一貫にすればすべてうまくいくということではないと思います。これは、やり方の問題ではないかと思います。

鹿野の小中一貫校も頭に入れていただきたいのですが、鹿野も色々なところの例を見ながら、５・４制に取り組まれようとしています。当面は分離型ですが、将来的には一体型とすべきであろうということが第１２期の校区審議会の答申にはありました。分離型で教育するには、もっともっと工夫が

必要ではないかと思います。

教育効果の生徒数の推移というのは、先ほどグラフで見ていただいたとおり平成２９年度から少し増えてまた減りさらに増えるということですが、規模としては、今後 100 人を超えることは考えにくいだろうという状況です。ただし、住宅の立地等で予測がつかない部分もあります。生徒数の推移については、そのようなことでよろしいでしょうか。

小規模校転入制度活用の有効性ですが、明治、東郷、湖南あたりがうまくいっているようです。やはり、それなりの魅力がないと児童が集まりません。いかにして魅力ある学校をつくっていくかということをしっかり考えていく必要があります。小規模校転入制度の有効性については、４つの案の学校いずれもあてはまるということでよろしいでしょうか。

教育面で期待される効果ですが、これについてはいかがでしょうか。

委員

４つの案の中で、どうかということではないのですが、教育を考える会を立ち上げて、江山地区としてこのようにしたいという要望を出され、校区審議会が依頼をして、再度回答文を出された経過を踏まえれば、江山中学校を他の中学校と統合するという選択肢があるのだろうかという気がしています。平成３０年１月１０日に出された回答書の中で、伝統文化の継承ということがありますが、１番目に掲げられており、それなりの意味があると思います。行政としては、これからどんどん子どもが少なくなって、小中学校の数を減らさざるを得ない、どこかと統合しなければならないという状況ですが、おそらく江山校区の考える会とすれば中学校との統合というのは考えておられないと推測しています。やはり、学校の教員としては、学校のある地域ということも大事にしていきながらやっていきたいと考えています。したがって、４番目の案の近隣中学校との統合というのはあり得るのだろうかという疑問符を私自身は持っています。

また、小規模の学校が何とかしてほしいと行政に要望書を出すのですが、相手方があるようなケースが、逢坂もそうですが今後どんどん増えてくると思います。その時にどのようにスピード感を持って対応していくかということも重要です。このスピード感も神戸の方々にとっては、大事だと思います。ですから、まずは小学校について早く対応することが大切で、そこに江山中学校を今のままにしておくとか、将来的に小中一貫校あるいは義務教育学校にするとか、美和小学校に空いた敷地があるなどの話も伺いましたが、そこに一体型の学校をつくるのかどうかはわかりませんが、そのようなビジョンも考えられるのではないかと思います。

他の中学校との統合はあるのだろうかということと、スピード感を求められるのではないかという２点を考えています。

会長

私の審議を進める順番が、逆だったかもしれません。４つの学校のあり方が考えられるわけですが、それは、少し置いておきます。

本日の資料にもありますが、考える会からの回答文書について、ここでご意見をいただきたいと思います。我々が考えていたお願い事項と回答文書に少しすれ違いがあるような気がしています。この回答文書は回答としてしっかりと受け止めないといけないわけですが、神戸小と美和小の統合については委員の皆さんの中でも早期に進めましょうということでよろしいかと思います。中学校の部分については、私たちの問いかけとしては、「小中一貫だけが中学校の小規模化を解消する唯一の方法で

はない」ということで、もう少し様々な方法があるのではないかということなのですが、回答ではそこのところは触れられておりません。もちろんすべての答えを要求するのも無理なのかもしれません。そのようなことで、項目を整理していった方がいいのではないかということで、先ほどまで審議を進めさせていただきました。先ほど〇〇委員のご意見にもありましたように、要望を生かすとすると、案の３あるいは４というのはあり得ないのではないかということです。そのあたりを踏まえながら進めていきたいと思います。

委員

江山中学校の校長によると、「今でも特色ある学校経営はしている」とおっしゃられまして、そのとおりだと思いますし、これから特色をさらに出していくということは今後も地域の方や保護者とされると思います。ただ、私が先ほど言ったように生徒数が１００人を割るようになると運営面で厳しいものが出てくるのではないかという予想が容易につくわけです。ですから、教育委員会が検討する範疇ですが、教員の配置の仕方として、小中一貫校ですと小学校と中学校の兼務がかけられるわけですから、専門性のある教員が配置されれば、他の学校から来ていただくということもなくなってくるのではないかと思います。

平成３０年１月にスポーツ庁が「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン骨子（案）」を示しましたが、部活動のあり方を見直すという動きがありますので、先ほど申したように子どもたちが自由に学校以外のクラブ活動を行うようになるのであれば、小規模校での部活動の心配というのがなくなるのではないかと思ったところです。

〇〇委員がおっしゃられたように、他の地域との統合というのは、回答文書の中身を見るとあり得ないと思います。伝統文化を継承するとか、地域と共通理解の上で学校が地域と一緒に人づくりを進めるということなどが、理想として書かれていますので、そこで考えるしかないと思います。子どもたちが別の地域の学校に行くということは、地域での人づくりができなくなってしまうと思います。また、自治会が分断されるようなことがあってもいけないと思います。

委員

お伺いしたいのですが、部活のあり方がどのように変わるのでしょうか。将来的に課題でなくなるかもしれないということについて、もう少し詳しくお聞かせいただけますか。

委員

教員の働き方改革から端を発していて、中学校の教員の忙しさの要因を見ると、部活動の指導が挙げられるということです。そういうことで、スポーツ庁が、運動部の部活動のあり方について検討したわけです。吹奏楽部などの文化部は該当しません。

この運動部のあり方のガイドラインを見ると、部活動指導員を配置して、教員の負担を減らすということがあります。教員が顧問としてつかなくても、部活の指導も引率もできるような部活動指導員を配置するというものです。鳥取市においても来年度は何人か配置されるようです。

また、部活動そのものを減らしなさいということも示されています。私の中学校でも、たくさんの部活動があるのですが、なかなか無くせない現状がありますが、そういう指示が初めて出ました。したがって、以前よりも減らしやすくなると思います。

江山中学校に置き換えますと、部活動を止めてクラブチームに預けるということができてくるかもしれません。大会も学校対抗だけではなく、クラブ対抗とするような動きもあります。例えば、野球部など９人そろわない学校も出てきていて、合同チームを教育的配慮で結成するのですが、そうなるとなかなか部活動が廃止できません。部員が数人でも、合同チームにより維持できてしまいます。その合同チームを永続的に維持するのではなく、教育的配慮を行うのは現在所属している部員がいる間などといった期限を切らないといけません。

そうであれば、少人数の部活動に所属する生徒をクラブチームに委ねる、つまり自分が好きなスポーツができるように鳥取市にあるクラブチームに所属しながら大会に出るという方法も考えられます。野球にしても、選抜のクラブチーム対抗の文部科学大臣杯というのができています。そういった、クラブ対抗を文部科学省も推しているなら、スポーツの活動を維持しながら学業に専念できるという学校運営に変わっていく可能性があるということです。

会長

学校の教育活動から切り離し、市民活動の一つとして運営されるような形ですか。

委員

小学校のスポーツ活動が、まさにそのような形になっています。

委員

将来、そうなるかもしれませんが、1～2 年のうちに部活動が学校教育から切り離されるということはないと思います。

都会ですとクラブチームにはＪリーグのユースチームとか野球のリトルリーグとかありますが、鳥取にそういった組織や団体がいくつあるかという問題があります。また、部活動指導員が今年度から学校の教職員の一員とすることができるように学校教育法施行規則も改正されましたが、そういった部活動指導員が急激に配置できるわけではないと思います。予算の問題もあるので、全校に全ての部活動に部活動指導員をあてがうことは早々できるものではありません。

もうしばらくは、子どもたちの放課後の過ごし方なりスポーツの教育は現状維持していかないといけない時代は続くと思います。そうしたときに、子どもたちは、野球部にある中学校に行きたいとか、バレーボールチームがある学校に行きたいとか、そういった志向を持ち続けると思います。

したがって、部活動については、将来課題がなくなるかもしれませんが、江山中学校の現在の部活動の問題を置いておいてもいいかというと、そうではないような気がします。

会長

しばらく時間がかかりますが、徐々に、学校教育とは別に進むという時代にいずれ来るだろうということです。それから、小規模の江山中学校の魅力をどうしていくかということですが、どういう形でスタートしても当面は現状のままでも少しずつ変わっていくだろうということです。

今までの議論の中で、教育的効果についていえば、中学校の運営面で小中一貫校にはメリットがあるだろうということです。また、メリットがあるようにしていかなければなりません。そのあたりは、学校長、教育委員会を含めて議論し、地域が理解されれば小中一貫校としての魅力は出せるかと思い

ます。ただ、そういう体制をとろうということがないとなかなか難しいと思います。

委員

兼務教員について補足させていただきます。中学校の先生が小学校に出向いて授業をするとなった時に、現在の江山中と美和小を当てはめてみますと、移動しなければなりません。移動の時間を計算しなければなりませんが、それを含めて２コマ分ぐらいを見ておかないといけません。そうなると、時間割の編成が難しくなるということがあると思います。一つの校舎の中でしたら問題はないのですが、小さい学校ですと１教科に何人もの先生がいるということは想定しにくいので、その先生個人で見ると負担は増えると思います。全体としてのカリキュラムの組み方にしても、現状より組みにくくなると思います。

会長

それを考えると、一時的に分離型であっても、なるべく近い将来に一体型にしないと効果が上がりにくいということですね。

委員

効果もですが、分離型だと、兼務の先生の負担があったり、時間割編成のしづらさがあったり、不利な条件にあると思います。現状のまま、一貫型教育を進めるのであれば、移動の問題があります。

会長

早い時期に一体型にするという方向付けを同時にしないといけないと思います。また、江山中学校の校舎が相当古く、いずれ改築をしないといけないという状況もあります。そのようなことを踏まえると、現地に中学校をもう一度建てるのではなく、小学校に増築するというような形をとらないとなかなか効果が上がらないと思います。そういう方向になれば、付帯事項をつける必要があると思います。

教育効果について、中学校の運営面で将来的に一体型の一貫校とすれば、教員の相乗りをしやすいのではないかということです。そうなることで一般的に教育的な効果が上がるのではないか期待されるところです。あるいは、小規模校転入制度というのは小規模校であればどこでもしていかないといけないことですが、魅力ある学校をつくっていただかないといけないということです。

４つの案のうちの３番目が当面はいいという考え方もあると思います。当面は小学校だけの統合を考えて、中学校についてはもう少し待つべきだという考え方もあるかもしれません。ただ、これについては、地元との意見も合わないところです。

通学面というのは、今のところ、４番目の案は非常に広域になりますので、大変な部分が出てくるかと思います。１～３番目の案はあまり変わらないと思います。

校舎の位置と利活用は、もし一貫型を考えるのであればいずれ一体型にしないと、効果は上がらないと思います。学校によっては校舎自体が非常に古くて改築の時期をそろそろ迎えるということもありますので、そういった部分も考慮する必要があるのではないかと思います。

開校時期については、どういう学校をつくるかにもよりますが、神戸小学校と美和小学校の統合については、なるべく早く平成３１年度にでも進めていくべきではないかと考えています。これについ

ては、小中一貫校にするかどうかということももう少し議論してからにしたいと思います。実際に開校を考慮すると、神戸小学校と美和小学校と江山中学校の思いをいい具合にまとめ上げていかないといけません。かなり審議を急がないと平成３１年度は難しくなります。少なくとも、２月中にこの審議会で結論を出さないと、3月の教育委員会にかかりませんので、３１年度の開校が難しくなります。そういう意味でも、審議を急ぎたいと思います。

具体的な校区再編方法ですが、もし具体的に校区をどこかにくっつける、あるいは中学校をどこかと統合するということになれば、どう考えるかという課題が出てきます。先ほどご意見がありましたが、地域の要望を含めて考えるのであれば、４番目の案の検討に時間をかけなくてもいいかと思います。

学校と地域との関わりですが、地域からの文面で読み取ることができると思いますが、例えば神戸小学校と美和小学校を進めるとなると、対等合併になるのか吸収合併になるのかという問題がありますが、小学校の思いはお互いの学校にあると思いますし、さらにここに中学校が出てくると、しばらく時間がかかるか、あるいはもう少しスムーズに進めていくか、そのあたりの判断が必要になるかと思います。学校と地域の関わりについては、〇〇委員に少しお伺いしたいと思います。

委員

小中一貫校とする意味ですが、学年の区切りをなくして小規模の学校の効果を上げるためにされるのか、大規模の中学校であってもそれなりの効果があってなされるべきものなのかそのあたりがわかりかねるところです。

要望書の内容は小中一貫校ということですが、それであると時間的に先に延びてしまうということもありますし、一度、小中一貫校として方針を固めてしまったら他と統合するときに、相手方が小中一貫校でなかったらまた別の問題が起こるということもあるので、やはり一度小学校を統合されて、その後のあり方を練られてから次にいかれた方がいいと思います。一度決められると、それ以上に校区を拡大できないということも考えられます。今後人口が少なくなるということも考えると、今より増えるということがまずないということを考えればやはり、小学校とは切り離して中学校のあり方を考えていった方がいいのではないかと思います。

また、追加で届けていただいた文書を見ましても、この内容自体も今の学校のあり方でも十分できることではないかと思います。小中一貫校でなければできないことといえば、学年の区切りをなくすということになると思いますが、すぐに効果が上がるものでもありませんし、もう少し他に効果が上がる部分も含めて考えていかれたらいいのではないかと思います。小学校だけの統合を行うことがまずは先決ではないかと思います。

委員

一貫教育というのは、一貫校でないとできないわけではなく、小学校と中学校や学力面や学校不適応の対応を一貫教育の中でできます。鳥取市は、学力向上や不適応解消を２本柱で一貫教育に取り組んでおり、４年が経過しました。この一貫教育というのは、一貫校と間違えやすいのですが、学校が一つになるのが一貫校です。ですので、一つの学校ではなくても一貫教育は取り組まれています。

教育効果は、もちろん大規模校でも向上すると思いますが、一貫校にしなくても大分上がってきているのではないかという気がしています。

会長

〇〇委員がおっしゃられたのは、もし、義務教育学校あるいは小中一貫校とした場合に、これがどんどん児童生徒数が減ったとき、近隣の学校と統合しにくいのではないかというご指摘です。そうであれば、小学校だけの統合にしておいて、中学校は色々な可能性を残しておいた方がいいのではないかということだったと思います。

小学校の統合の方法が、吸収合併ではなく対等合併であれば、制服、学校章、校歌まで全部作り直す事例が多いと思います。小規模校が大きな学校に吸収される場合は、大きな学校の色々な規則に則ってなされると思いますが、今回の美和小学校と神戸小学校の場合も、対等合併なのか吸収なのかによっても対応が変わります。

さらに中学校を含めて義務教育学校となると、全てが新しいものになります。そういった準備期間を考えるとなかなか時間がかかることになります。少なくとも１年以上はかかると思います。子どもたちの様々な状況を考えますと、少なくとも神戸小学校については地域の強い要望がありますので、あまり長く延ばせないと思います。

ここに中学校を含めたところでどうするかといったことで、分けるか、しばらく現在の中学校のままでいくか、将来どこかと統合することを含めるか、ということですが、ただ地域はそのような要望をしていません。やはり地域としては、学校がなくなるのは、困るという思いが根底にあると思います。学校があってこそのまちづくりができる、学校がなくなるとまちが衰退するという思いがあると思います。小中一貫校にして残したいという気持ちが強いのだと思います。

教育の中身も効果が上がるように考えていきたいという内容も文書の中にはありましたが、〇〇委員がおっしゃられたように、この目指す学校の内容でしたら、小学校と中学校が別々でも十分果たせる内容になっています。目指す学校の中身について地域に全てをお任せするわけにはいかないわけですが、どのようにしたら特に中学校の生徒が魅力ある教育を受けられるようになるかといった部分がこの文面から読みにくいところがあります。このあたり、委員の皆さんもどうすべきかと考えておられるところだと思います。

委員

資料６ページにあるように、１１月１６日に「中学校のあり方について」と投げかけをさせていただいたのですが、７ページの回答書では「一貫校開設にあたり」、「一貫校設立に際して」ということで、一貫校ありきで回答が寄せられてきています。私たちは、一貫校設立は選択肢の一つであるが、他にも選択肢はあるかもしれないということで投げかけたのですが、一貫校を前提で文書がつくられています。

もし、考える会の方で、どうしても一貫校なのだということであれば、それはそれでよいと思いますが、８～９ページの中身を読ませていただきましたが、大変失礼な言い方かもしれませんが、表題に別の地域名が入っていても意味が通じてしまうというか、いわゆる小中一貫校にしたらこんなことができます、あるいはこんなメリットがありますというような標準的、教科書的なことしか書かれていません。ですから、江山校区のオリジナリティですとか、江山校区でしかできない教育活動であるとか、そのあたりが、やはり私たちには伝わってきていない部分です。

また、教育の内容の詳細については、校区審議会が結論を出したら、考えるというスタンスなのかもしれませんが、そういう状態では私たちは答申を出せないということで議論してきたと思うので、残念ながら今回いただいた回答書では、小中一貫校にしてはどうですかという結論は自信を持って出

せません。

小学校については、「中間まとめ」で記載しましたので、あとは統合のスタイルである、対等か吸収なのかということを急いでつめて、２月までにということをしていかないと「中間まとめ」の意味もないですし、そのようなところを委員の皆さんと共有していただけたらいいのではないかと思います。

会長

依頼文の「中学校のあり方について」の答えがなかったということと、内容がごく一般的であるということです。７ページの下から６行目ですが「今後の詳細な内容につきましては一貫校設立の承諾の回答を受けてから速やかに新推進委員会で審議をしていく」とありますが、もう少し江山の特色のような具体的な中身が入っていれば、非常に考えやすかったと思いますし、地域の思いを含んだ小中一貫校とするために３校を統合していくべきではないかと受け止めることができたのではないかと思います。そこの部分が受け取りにくかったので、私もさてどうするかということで、論点整理ということで項目を上げて何とかいい形に整理できればと思ったところです。

先ほども申しましたが、地域に全てをお願いするということにはならないと思いますが、湖南学園を視察した時に感じたのは、非常に工夫されているということです。鹿野中学校は外からしか見たことがないのですが、小学校は実際に行って校舎内を色々見まして、小学校と中学校が離れていることも認識しているのですが、これまでの鹿野の様々な経過などを文書で見ましても、相当地域の中で検討されながら、教育委員会ともやり取りをされており、それなりの成果が上がるだろうと感じているところです。

江山の場合は、そこが少し見えにくいので、正直心配しているところです。小中一貫校になれば成果が上がるのだというところの、地域の特徴や応援の体制みたいなものがもう少し見えるといいなと思います。そこの部分は、我々や教育委員会がもう少しサポート体制をとった方がいいのかもしれません。

もう一つは、文書はこういう形で出てきているのですが、本当はもっと熱い議論がされているのではないかという期待も持っています。〇〇委員がおっしゃられたように、我々としては地域の要望を基本的には受けて、それに沿う形での結論を出したいのですが、なかなかこのままどうぞというわけにはいかないので、どこかでサポートをするとか、熱意を語っていただく場面も必要なのではないかと思っているところです。

時間も押しており、なかなか本日に結論は出しにくいので、できれば２月にもう一度会を開かせていただきたいと思います。次回ですが、できましたら２月１６日の金曜日、午前９時３０分からお願いしたいと思います。次回は、神戸小学校の対応が急がれるということもありますので、江山校区の学校のあり方について結論を出していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

事務局

慎重なご審議ありがとうございました。次回の校区審議会は２月１６日ということで、３週間後になり、非常にタイトになりますが、引き続きご審議いただきますようよろしくお願いします。以上をもちまして、第１３回鳥取市校区審議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

平成　　年　　月　　日

会　　長　　本　名　俊　正

議事録署名委員

署名委員　　山　田　康　子

署名委員　　牛　尾　柳一郎